

平成30年度「学校評価実施報告書(前期分中間報告)」

1. 「確かな学力」の育成に向けて

(1) 重点目標

教科会を中心とした授業研修の活性化を行う中で、自ら学ぶ・学べる学習環境作りを推進する。

(2) 具体的な取組

- 全教科が「学ぶ意義」「将来性」「身につけたい資質・能力」「魅力」に着目したプレゼンを、全校集会形式（梅津の学び オリエンテーション）で実施する。
- 全員が年間一回以上の研究授業または公開授業を計画・実施し、主体的で対話的な深い学びのある授業の研修を行う。
- 「本時の目標」と「本時のふりかえり」を毎授業確認、記述する。
- 確認プログラムが実施されるごとに、授業担当者が成果と課題を分析する。
- 学習内容の定着に課題のある生徒に対する個別の支援体制を考え実践する。
- 土日の学習時間確保と一週間の学びの定着を目的とし、生徒一人ひとりに自学自習ノートを持たせて、金曜日配布、月曜日回収する自学自習の取組を行う。
- 保護者、家庭に対して学習習慣定着・確立の啓発を目的とした冊子「自学自習を楽しもう」を配布し、家庭への協力依頼を行う。

(3) 中間総括（成果と課題）

学習確認プログラムの数値結果では、3年生に向けて多少上がり下がりはあるが、徐々に上昇させることはできたと言える。ただし、子どもに保護者からの評価アンケートの結果で、学力が身についていないと思われる方が増えている。保護者の期待に添えるよう、さらに学力向上を目指す必要がある。

全国調査で「〇〇の勉強は好き。」「大切だと思う。」「将来役に立つと思う。」等、教科の学習の意欲や意味・意義に関する質問には、「当てはまる」「やや当てはまる」と回答する生徒の割合は高い。例年、学校評価生徒アンケートでも「学校に来るのは楽しい」と回答する生徒も多いことから、学校の授業には前向きに取り組もうという姿勢は見えるが、家庭で計画的な予習・復習や自主的な学習はできていない。その分、塾等へ多く通っていると思われるが、「教えてもらう」「与えてもらう」学習が中心となっている。

現在「自主勉」と言う名の宿題を休日に与えている。また家庭学習課題等は教科担任が小黒板に明示し、担任にも分かるようにして、与えた家庭学習は「する」習慣はついてきているため、計画的な家庭学習を自分に合った自分のために(自主的に)進めることができる力が必要。

また、全国調査に於いて、本校で最も数値の低かった『国語B』で、「時間が余った」と回答した生徒が全国比で20ポイント以上多く、諦めず粘り強く最後まで努力する姿勢も弱いと思われる。

(4) 分析を踏まえた取組の改善

社会への興味関心を持たせることと、地域社会との関わりを増やすことで、定着してきた学習の意義や目的の更なる理解を深める。そこから学習への意欲を強く持たせ、結果的に学力指標も上昇させたい。

ここ数年の小中協力した家庭学習の習慣づけのお陰で、学習時間や学習量は増えたと思われるため、次は学習内容やその方法について、いかに指導していくか(身に付けさせるか)を考えていきたい。

(5) 学校運営協議会による意見・支援策

落ち着いた学校の学習の様子について、本校の荒れていた難しい時期をご存じの方から、高く評価をして頂いた。家庭学習の量や質の課題について、それぞれの家庭の意識が最大の要員で、息の長い取組が必要。協力でき

る事があれば言うて欲しいとのことだった。

2. 「豊かな心」の育成に向けて

(1) 重点目標

落ち着いた学習環境を整え、言語活動を充実させるための「朝読書」をより効果的に定着させ、生徒の心に響く「道徳教育」や、豊かな人間性を育む「人権教育」を実践する。

(2) 具体的な取組

- ・ 読書活動を通して言語能力を高めるため、「朝読書」を小中一貫の一つの柱としても、継続し実践していく。
- ・ 共によりよく生きるために、自他の生き方や価値観の違いを認め合い、その良さを伸ばしつつ、多様性を理解する姿勢をしっかりと身につけてさせる。
- ・ 3年間を見通した本校の人権教育を継続する。学年内で係りを中心に十分な準備を行い、学年の実態に応じた人権教育を行う。
- ・ いじめや暴力などの問題行動に対しては、毅然とした姿勢で指導を徹底する。
- ・ 年3回の全校道徳をさらに深化させ、生徒の意見・感想を引き出し、交流することにより、生徒の心をより深く耕すものとする。
- ・ 生徒会の「梅津の志」徹底への取組を、全面的にバックアップする。

(3) 中間総括（成果と課題）

学校生活が楽しく安心して通えている生徒が、調査の度に増え、学校生活についての満足度は年々高まっていると言える。またルールを守り、多くの仲の良い友人と過ごしている割合も増加していて、これは自分も他人も大切にできていることの現れである。とくに今年度に限っても、新学級発足時の5月のク라마ネから、体育大会・文化祭といった大きな行事後の10月のク라마ネを比較しても「クラスのまとまり」「友だちとのつながり」の数値から、人間関係の向上がわかる。ただし「クラスのけじめ」「クラスのやすらぎ」には課題があるクラスもある。

暴力やいじめの事案は確かに「0」ではない。暴力については、感情をコントロールできない突発的なものが多く、故意の粗暴で悪質なものはなかった。いじめに分類される事案はこれまで8件。ただし重大事態に相当するものはなく、全て指導・対応はできているが、「解決」の目処3ヶ月に至っていないものもあり、経過観察を行っている。

全国調査の結果でも、「規範意識」に関わる設問は、これまで全国平均を超えることが多く、その傾向が続いていることが、暴力・いじめが蔓延しないことに繋がっている。さらにこれまで全国平均以下だった「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対する回答は、はじめて全国を上回った。

(4) 分析を踏まえた取組の改善

生徒会が宣言した「梅津の志」、その具体的な取組である「いいことばの日」は、ここまで生徒指導の3要素をうまく活用し、効果的に働き、本校は数年前の混乱期と比べると、とても落ち着いた安全・安心な学校となってきた。同時にここ数年は「働き方改革」の意味も込め、授業中の廊下張り付き当番の廃止、授業中の巡回を全員から当番制に縮小、校門当番の時間削減、テスト前の学習会の回数削減、部活ガイドラインの徹底等を行った。これが「何もしなくても大丈夫な学校」との錯覚につながらないように、注意を払う必要がある。

次授業のない先生は休み時間にそのまま教室・廊下で次のベル着を見届けるまで生徒と過ごすことや、トラブルの起きやすい昼休みは教室・廊下だけでなくグラウンドにも出ることも継続する。

今後、生徒会担当や生徒指導部の取組によりもたらされた現状を、個々が授業中に行う生徒指導と、創意・工夫されて活動が多く、主体的・対話的で深い学びを目指した授業から、生活面・学習面の向上を目指すと言う視

点に変えていきたい。

(5) 学校運営協議会による意見・支援策

学校や生徒の地域等での生活の様子も、一時とは大きく違っていると高く評価して頂いた。しかし、特に全体的に多い不登校生徒数の割合については、心配をされている。不登校に関するいくつかの事例もご存じで、不登校生徒への対応は画一的にいかず、一人一人の保護者・生徒の状況を見極めることの大切さや、時には保護者を支えることが先決だったり、きっかけや理由が学校にない場合も多いことなど、学校だけの対応の難しい点について、必要な協力は行うという言葉も頂いた。

3. 「健やかな体」の育成に向けて

(1) 重点目標

食・健康・安全などについての関心を高め、心身の健康の保持促進に対する実践力を養い、また部活動などのスポーツを通して、体力の向上・情緒面の安定、また、知的な発達を促す

(2) 具体的な取組

- ・ 保健教育の充実を図り、基本的生活習慣確立に向けた指導と支援を行う。
- ・ 「食育だより」を活用することなどを通じて、食育を推進することにより、心と体の調和の取れた成長をはかる。特に、朝食を全員がとれるようにはたらきかける。
- ・ 保健室の意義・目的・利用方法等の指導を通して、自己管理意識を深化させる。
- ・ 朝の健康チェックを通して、日常的な健康観察を徹底し、迅速な対応をする。必要に応じて、家庭や専門機関との連携を図る。
- ・ 日常の安全点検を行い、常に危険を回避できる環境をつくる。
- ・ 定期的に避難訓練を実施し、安全への意識を高める指導を行う。また生活・交通・災害に対する安全教育を充実させる。
- ・ 部活動のガイドラインを遵守し、適切な運用を進める。

(3) 中間評価（成果と課題）

基本的生活習慣については、「朝食」に関する設問結果に象徴されるように課題が多いが、年々改善されている様子も「経年変化」を見るとわかる。家庭の教育への関心の高まりも感じられ、学校と家庭の連携、小学校と中学校の連携を更に進めたい。

学校評価アンケートから学校生活全体への安心感は高いが、部活動については評価が下がった。4月に出された部活ガイドラインにより、活動日数・活動時間が減ったことが、影響していると思われる。今後は部活ガイドラインの趣旨の理解深めることが必要と考える。ただし、運動部活動の公式戦の結果は、全体的に出しており、昨年度までと遜色はない。

体力テスト結果は、数値的にはかなり課題がある。ただし、体育の授業は真面目に楽しく元気に取り組んでおり、大きな問題は見受けられない。体力テストを年に数回行い、生徒の意識の向上と検査に対する慣れも必要と考える。

(4) 分析を踏まえた取組の改善

基本的生活習慣の心身の健康へ与える影響について、さらに生徒・保護者へ訴えたい。体育の授業でも、限られた時間の中で、より科学的に体力向上を図る研究を進める。小中連携もより深めていきたい。

(5) 学校運営協議会による意見・支援策

不登校の原因ともなる、心身の健康の維持・増進について、改善が必要との意見があった。とくに地域の一員としても、協力できることはしていきたいとのことだった。